

高き志【にころざし】

今、感じていること

今日、5月14日は、延長された休校期間2回目の登校日でした。学校には元気な子供たちの声が響き、うれしそうな笑顔をたくさん見ることができました。私たち教師も、そんな子供たちからエネルギーをもらうことができた一日でした。

この休校期間中、色々な出来事から様々なことを感じる機会となっています。世界中、日本中から日々多くの情報が伝えられていますが、一番に感じることは「人の素晴らしさ」です。その筆頭には、危険を顧みず患者への対応を続けられている医療従事者の方々の頑張りが挙げられるでしょう。富山市民病院長の管理者が「家に帰らず車中泊をしている職員さえもいる。500人あまりの看護師のうち、100人以上が自宅待機。まさにぎりぎりの人数で運営している。今は病院機能が維持できているが、このまま行くと崩壊しかねない。」と涙ながらに訴えた場面をご覧になった方は多いのではないかと思います。また、そんな医療関係者へ感謝の気持ちを表す様々な行動が起こされていることもたくさん伝えられています。

その他、目にした情報の一つに俳優トム・ハンクスさんの下のような話題があります。

ハンクスさんは3月、映画の制作のためにオーストラリア滞在中に新型コロナウイルスに感染し、妻のリタ・ウィルソンさんと治療を受けていた。その際、コロナ・デ・フリースくん(8)からお見舞いの手紙を受け取った。
「あなたと奥さんがコロナウイルスに感染したと聞きました。大丈夫ですか？」とデ・フリースくんは書いた。
また、自分の名前は大好きだが、学校で「コロナウイルス」と呼ばれたと説明。「そう呼ばれるたびにとても悲しくなり、怒っています」と続けた。
ハンクスさんは返信で、「大好きな友達のコロナへ」と書き、「きみの手紙で僕と妻は素晴らしい気持ちになった！素晴らしい友達になってくれてありがとう。気分が落ち込んでいる時に励ましてくれるのが友達だ」とつぶやいた。また、「きみは僕の知り合いの中で唯一、コロナという名前を持っている。コロナとは指輪、太陽、そして王冠という意味だ。素晴らしい名前なんだ。」と励ました。
ハンクスさんとウィルソンさんは3週間、間にわたってゴールドコーストで療養し、現在はアメリカに戻っている。
ハンクスさんはこの手紙と共に、療養中に使っていたコロナ社製のタイプライターをデ・フリースくんに贈ったという。

とても素敵な話ですね。しかし、上の二つの話題には、どちらもマイナスの側面が含まれています。

それが、今感じていることの二つ目…「人の弱さ」です。

ハンクスさんの話題でのマイナスの面は、一読してお分かりになると思います。コロナがきっかけとなり、デ・フリースくんはいじめに合ってしまったのです。

富山市民病院の場合は、病院や職員がネット上などでひどいバッシングを受けた事実です。自粛が叫ばれていた中、送別会を開催したことがクラスターの発生につながっているのですから、病院側に責任がないとは言えません。しかし、最近のネット上での誹謗中傷は、度が過ぎているように感じるのは私だけでしょうか。

人は、自分の身に危険や被害が及ぶ状況に直面した時、弱さが表れてしまうのだと改めて感じます。マスク売り場でいさかいが起こる。買い占めでトイレトーパーがなくなる。感染者への根拠のない差別。これらもすべて「人の弱さ」なのだろうと思います。このような状況では、「弱さ」を自覚し、弱い自分に負けないよう努力することしかできないのだと思います。弱さを持っているのも、素晴らしさを持っているのも同じ人です。人はその両面を抱えながら「自律」していくことが大切なのでしょう。

そしてこの「自律」こそ、本校で子供たちに育みたい資質能力として、一番目に掲げている力です。学校が再開された後、日々の教育活動で少しずつ少しずつこの力を蓄え、人をいじめたり、辛い立場にある人を誹謗中傷、差別したりすることがない子供たちを育てたいと、改めて感じています。